

- 問1 日本の工業地帯の特色について述べた資料において、東京都と神奈川県を中心とする地域の状況を説明した文として、適切なものはどれですか。
(2020年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 官営の製鉄所が建設されたことをきっかけに発展し、現在は自動車工業の集積によって出荷額で全国首位に立っている。 | 2. かつては日本最大の工業出荷額を誇り、現在は中京工業地帯に次ぐ規模ながら、依然として主要な工業地帯の一つである。 | 3. 京阪神地域を中心とした広大な工業地帯であり、中小規模の工場が密集して高い技術力を維持している。 | 4. 地価の高騰や工場の地方移転が極端に進んだため、現在は全国の工業地帯の中で出荷額が最も低く停滞している。 |
|---|--|--|--|
- 問2 高知県産のピーマンについて、1月から4月にかけての出荷割合が高くなっており、この時期の平均価格は800円/kg前後と、夏場の約2倍に達しています。このような出荷調整を行う主な目的として、最も適切な説明はどれですか。
(2019年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|---|-----------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 他の産地の出荷が少ない時期に販売し、より高い価格で利益を得るため。 | 2. 夏の猛暑による品質低下を避けるため、出荷時期を意図的にずらしているため。 | 3. 寒冷な時期にのみ需要が高まる、特殊な品種を栽培しているため。 | 4. 冬場は輸送コストが安くなるため、広域への大量出荷に適しているため。 |
|--------------------------------------|---|-----------------------------------|--------------------------------------|
- 問3 ある地域の農業産出額の内訳を調査したところ、畜産の割合が約6割に達しており、他の地域に比べて圧倒的に高いことが分かりました。この地域で行われている農業の具体的な姿として正しいものはどれですか。
(2026年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 夏の涼しい気候を利用して、レタスやキャベツなどの高原野菜を栽培している。 | 2. 干拓地などの平坦な土地を利用し、米の生産調整のために大豆などの工芸作物を作っている。 | 3. 急峻な地形を利用して、傾斜地で段々畑を作り、みかんなどの果樹を栽培している。 | 4. 冷涼な気候と広大な土地を活かし、根柢台地などで大規模な酪農が行われている。 |
|---|---|---|--|
- 問4 日本の工業において、生産拠点の海外移転が進むことで発生する「産業の空洞化」に関する説明として、その背景と影響を正しく述べたものはどれですか。
(2025年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 科学技術の発展により、経済の重点が製造業からサービス業や情報通信業へと移行した結果、国内のすべての産業において生産額が増加している。 | 2. 製品の付加価値を高めるために知識集約型産業への転換を図った結果、国内の製造現場では高度なロボット技術が導入され、雇用が大幅に拡大した。 | 3. 都市部への急激な人口集中により、地方で工場の労働力が不足した結果、国内の製造業が維持できなくなり生産拠点を海外へ集約した。 | 4. 安価な労働力や広大な土地を求めて企業が海外に進出した結果、国内の工場が閉鎖され、地域経済の停滞や雇用の喪失が課題となっている。 |
|---|--|--|--|
- 問5 都市の人口構造において「昼夜間人口比率」という言葉が使われます。この比率が100パーセントを大きく超える地域の特徴を説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。
(2023年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 大規模な工場が立ち並ぶ工業地帯であり、交代制勤務のために昼間と夜間の人口が常に一定に保たれている。 | 2. 住宅供給公社による大規模な住宅団地が整備された地域であり、都心へ通勤する現役世代が多いため、昼間の人口が極端に少なくなっている。 | 3. 都市の郊外にあたり、豊かな自然環境を求めて移住する人が多いため、夜間に滞在する居住人口が昼間の活動人口を上回っている。 | 4. 都市の中心部にあたり、オフィスビルや商業施設が集中しているため、通勤や通学によって流入する人口が居住人口を上回っている。 |
|--|---|--|---|
- 問6 日本列島の周辺海域において、新たな国産エネルギー資源の開発に向けた調査が進められています。太平洋側の海底に広く分布している統計資料などから読み取れる、この資源の特徴や背景についての説明として最も適切なものを選びなさい。
(2019年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 電子機器の製造に不可欠な希少金属であり、その多くを中国からの輸入に頼っている。 | 2. 成層圏において紫外線を吸収する役割を持つが、温室効果の原因にもなる物質である。 | 3. 天然ガスの成分を含み、将来の重要な国産エネルギーとして期待されている。 | 4. 北アメリカなどで生産が盛んな、地層から直接採取される非在来型の天然ガスである。 |
|--|--|--|--|
- 問7 東京都中央区勝どき付近の土地利用の変化を整理した情報によると、1970年（昭和45年）当時は地図上に「工場」の記号が多く見られましたが、2015年（平成27年）には「高さ60m以上の建物（高層ビル・マンション）」が密集するようになっています。このような変化が起きた地域における人口の動向として、正しいものはどれですか。
(2017年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|--|--|--|
| 1. 工場の閉鎖とともに働く場所が失われたため、人口や世帯数が激減した。 | 2. 高齢化の影響を強く受け、若年層が郊外へ流出したため人口は横ばいである。 | 3. 住宅としての需要が高まったことで、世帯数や人口が以前の2倍以上に激増した。 | 4. 工業地帯としての再整備が行われたため、工場労働者の世帯のみが増加した。 |
|--------------------------------------|--|--|--|
- 問8 日本は主食用米の自給率はほぼ100%ですが、国際的な約束（ミニマム・アクセス）などに基づき、一定量の米を外国から輸入しています。2018年の統計において、日本が輸入した米の約9割を占める上位3カ国の正しい構成を答えなさい。
(2019年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------|--------------------|------------------|---------------|
| 1. アメリカ、中国、ベトナム | 2. アメリカ、タイ、オーストラリア | 3. タイ、中国、オーストラリア | 4. アメリカ、タイ、中国 |
|-----------------|--------------------|------------------|---------------|
- 問9 日本の主要な穀物の収穫量に関する統計において、収穫量の第1位が新潟県、第2位が北海道、第3位が秋田県となっている作物はどれですか。
(2016年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|------|-------|-----------|
| 1. 小麦 | 2. 米 | 3. 大豆 | 4. とうもろこし |
|-------|------|-------|-----------|
- 問10 日本の貿易統計において、成田国際空港の貿易額（輸出入額）が全国の主要な港の中でも常に上位にある理由を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。
(2022年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 航空機による輸送は、大型の船舶よりも一度に大量の貨物を運ぶことができるため、鉄鉱石や原油といった重量のある資源を効率よく運べるから。 | 2. 航空機による輸送は、海上輸送に比べて費用は高いが高速であるため、IC（集積回路）のような軽量で高価な製品や、鮮度が求められる商品の輸送に適しているから。 | 3. 航空輸送は海上輸送よりも燃料費が安く抑えられるため、小麦や大豆などの安価な農産物を大量に輸入する際の主流となっているから。 | 4. 近年、環境保護の観点から海上輸送が制限されており、日本に輸入される自動車や機械類のほとんどが航空輸送に切り替わったから。 |
|---|---|--|---|
- 問11 21世紀以降の日本の農業に関する統計において、2005年から2015年の10年間で、農業就業人口は約330万人から約200万人へと大幅に減少し、経営耕地面積の合計も約470万ヘクタールから約440万ヘクタールへと減少しています。このような日本の農業の現状を説明した文として、最も適切なものはどれですか。
(2018年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 若者の新規就農者が急増したことで農業就業人口の若返りが進んでいるが、宅地開発の影響で経営耕地面積のみが減少している。 | 2. 農業の機械化や大規模化が進んだ結果、農業就業人口は減少したが、一戸あたりの耕地が拡大したため経営耕地面積の合計は増加している。 | 3. 農業就業人口が減少する中で、特に65歳以上の割合が極めて高い高齢化が進行しており、それに伴って経営耕地面積も減少傾向にある。 | 4. 農業就業人口は横ばいであるが、海外からの安価な農産物の輸入が増えた影響で、国内の経営耕地面積を意図的に減らしている。 |
|---|--|---|---|